平成２９年度学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立工業高等学校

重点目標		具体的取組		主担当	達成度判断基準	分析(結果と課題)及び次年度の扱い(改善策等)
1	生徒の主体的・協働的学習を推進し、アクティブラーニングの視点から、思考力や表現力、コミュニケーション能力の育成に努めるとともに、学習の成果を的確に評価することに努める。(学びのスタンダード、SPH 事業の成果の継承推進)	①	県工学びのスタンダードを活用し、かつＳＰＨ事業の成果の拡充・継承を目標とすることにより、創意工夫されたわかりやすい授業を実践する。	教務課 各教科	「県工 Thinking time」などを通して、根拠を提示し論理的に主張できるようになったと回答する生徒の割合で判断する。［改定］ Ａ　７０％以上 Ｂ　６０％～７０％未満 Ｃ　５０％～６０％未満 Ｄ　５０％未満	(教務課・各教科）最終評価（ Ｃ ） 生徒対象の学校評価アンケートにおいて、「根拠を提示し論理的に主張できるようになった」と「思う」１０％、「やや思う」４６％、肯定的な回答は５６％であり、昨年より１０ポイントほど向上した。生徒対象の授業評価アンケートの結果によれば、８６％の生徒が「先生は考えさせる授業をしている」と回答している。授業において、思考する、考えることは行っているが、自分の考えを根拠を示して表現することに課題があるものと推察する。次年度は、「県工 Thinking time」を活用するのみならず、生徒が主体的・対話的に深く学ぶよう授業改善を進める。
		②	生徒の主体的な学習を確保し、学習習慣を身につけさせる。	教務課 各教科	予習・復習及び課題や資格取得に向けた学習等に取り組むことができたかどうかで判断する。［新規］ Ａ　十分取り組めた Ｂ　おおむね取り組めた Ｃ　ほとんど取り組めなかった Ｄ　まったく取り組めなかった	(教務課・各教科）最終評価（ Ｂ ） 生徒対象の学校評価アンケートにおいて、Ａ：２３％、Ｂ：５２％、Ｃ：２２％、Ｄ：３％であり、ＡとＢをあわせて７５％の生徒が「おおむね取り組めた」といえる。また、生徒対象の授業評価アンケートの結果によれば、７７％の生徒が「授業の予習・復習・補習・課題に取り組んでいる」と回答している。生徒の学習習慣は身についてきていると推察する。今後も生徒の主体的な学びが行われるよう教員が連携し、授業内容や課題の工夫を行う。
		③	教師個人及び各教科にて積極的に主体的・対話的な学びを取り入れた授業改善に取り組み、新しい授業づくりに挑戦する。	教務課 全教員	生徒が主体的に活動することを意識して授業を行っているかどうかで判断する。［改定］ Ａ　毎回行っている Ｂ　数回に１回程度行っている Ｃ　月に１回程度行っている Ｄ　ほとんど行っていない	(教務課・各教科）最終評価（ Ａ ） 教員対象の学校評価アンケートにおいて、Ａ：４５％、Ｂ：５２％、Ｃ：４％、Ｄ：０％であり、判定基準としたＡ評価＋Ｂ評価８０％を大きく超える結果であった。 今後も生徒が主体的・能動的に学習し思考を深める授業づくり実践のため、各種研修や授業改善に取り組む。
		④	授業の情報化および学力の定着が実感できる授業を目指し、ＩＣＴ機器の活用を促進する。	学習情報課	ＩＣＴ機器の活用等により授業が工夫されていると回答する生徒の割合で判断する。［新規］ Ａ　７０％以上 Ｂ　６０％～７０％未満 Ｃ　５０％～６０％未満 Ｄ　５０％未満	(学習情報課）　最終評価（ Ｂ ） 生徒対象の授業評価アンケートにおいて、ＩＣＴ機器の活用等により授業が工夫されていると「思う」＋「やや思う」が前期６２％、後期６９％であった。Ａ評価の７０％以上にはわずかに届かなかったが、次年度以降、ＩＣＴ機器の活用に係る研修を実施するとともに公開授業等において各教員に対して利活用を促していく。

学校関係者評価委員会の評価	・根拠を提示し論理的に主張できるようになるためには、生徒に発言する際の型を提示し、良い手本を見せたり、型に従って発言をさせることにより表現力や論理的思考力を育んでいくことも一つの方法である。 ・根拠を提示し論理的に主張する力は、卒業後社会人としても必要な資質・能力であり、学校として次年度以降も表現力や論理的思考力の育成に取り組んで欲しい。また、ＩＣＴ機器を効果的に活用することも大切である。 ・①の評価Ｃは端から見ると厳しい。Ｂ位でもよい印象がある。それだけ真摯に取り組んでいると思う。 ・①の分析の中に８６％の先生が考えさせる授業を評価しているが、さらに科目や場面など細分化して評価すると実態が見えやすいのではないか。
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策	・生徒の主体的、協動的な学びを目指し、学習指導方針や学力スタンダードをもとに、アクティブ・ラーニングの実践により表現力、論理的思考力を含めて学力向上を目指すとともに、校内での教員研修の充実によりファシリテート力、ＩＣＴ活用力等の授業力向上を図る。

重点目標		具体的取組		主担当	達成度判断基準	分析(結果と課題)及び次年度の扱い(改善策等)
2	将来の職業人としての意識の高い生徒の育成のため、規範意識やマナーの向上を目指す。(人間力スタンダード、校訓の活用)	①	校訓を掲げることにより、共通の理念のもと、一人ひとりの生徒の愛校心や帰属意識等、精神力を高め、将来の職業人に相応しい、規範意識や基本的生活習慣を身につけた生徒を育成する。	生徒指導課 各学年	挨拶の励行に積極的に取り組もうと努力している生徒の割合で判断する。［継続］ A　９５％以上 B　８５％～９５％未満 C　７５％～８５％未満 D　７５％未満	(生徒指導課・各学年) 最終評価(B) 生徒対象の学校評価アンケートにおいて、「取り組んでいる」＋「やや取り組んでいる」は前期９２％、後期９１％であり、それぞれ B評価となった。 生徒会執行部による挨拶運動や運動部生徒が率先して挨拶の範を示している。次年度も学年、科、部活動顧問と連携をとり、機会あるごとに挨拶の大切さを説き、挨拶の励行に取り組む姿勢の醸成・向上に努める。
					前年比の減少の割合で判断する。(遅刻者数)［継続］ A　前年比１０％以上の減少 B　前年比５％～１０％未満の減少 C　前年比０％～５％未満の減少 D　前年比増	(生徒指導課・各学年)　最終評価(A) ２学期末の遅刻者数は、今年度２５１人で、昨年比１３％の減少、４月～１１月の累計は、１８６人であり、昨年同期の２４６人に比べて、昨年比２４％の減少であった。しかし、１２月の遅刻者数は、今年度が６５人、昨年同月比２４人増加した。冬季に入り、交通渋滞に加え、荒天によりバス利用者が増えたことも一因と推察する。 次年度も学年、科、部活動顧問と連携を取り、さらに家庭とも協力して基本的生活習慣確立に向け、粘り強く指導を行うともに、改めて年間を通した指導のあり方も検討する。
			周辺美化活動や除雪作業等のボランティア活動や県工モノづくりワールド等の地域との交流活動を通して地域に貢献する意識を育てる。	総務課	生徒が活動に積極的に取り組んだかどうかで判断する。［継続］ A　９０％以上 B　８０％～９０％未満 C　７０％～８０％未満 D　７０％未満	(総務) 最終評価(A) 生徒対象の学校評価アンケートにおいて、周辺美化活動参加者のうち７月９１％、１２月８６％の生徒が「積極的に取り組んだ、やや積極的に取り組んだ」と回答し、地域貢献に肯定的な回答であった。また、県工モノづくりワールド後のアンケートでは係の生徒の９９％が肯定的に回答している。 今後も地域に貢献する意欲を向上させるよう各ボランティア活動の趣旨を生徒へ周知し、積極的に取り組ませたい。
		②	交通ルール等の遵守など、社会の一員としての自覚を高める。	生徒指導課 学年団	違反指導件数減少の割合を目標とする。［継続］ A　前年比１０％以上の減少 B　前年比５％～１０％未満の減少 C　前年比０％～５％未満の減少 D　前年比増	(生徒指導・各学年) 最終評価(D) 県警本部発表の自転車違反指導件数は、累計５８件(１２月末現在)で、昨年度同時期の４０件に比べて、４５％増加した。規範意識、交通マナーの向上を目指し、事故防止の観点からホームルームや全校集会等機会あるごとに自転車乗車マナー指導を行い、生徒会や部活動、関係機関と連携して違反件数の縮減に取り組む。

学校関係者評価委員会の評価	・人間力を高める指導は大切なことであり、規範意識やマナーの向上、ボランティア精神の育成等に継続した取り組みを求める。 ・交通ルールの遵守は、人としても必要なことであり、時には生徒に自転車違反指導件数を伝えるなど、しっかり指導をして欲しい。また、保護者やＰＴＡ、関係機関と情報を共有し、連携した指導を求める。 ・生徒が積極的にボランティアに取り組んでいることは評価できる。降雪時も地域の高齢者が大変助かっていると聞いてうれしい。
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策	・将来の職業人としての意識の高い生徒を育成するため、一層の規範意識やマナーの向上、ボランティア精神の育成を目指す。 ・継続して地域貢献の意識を向上させるため、学校周辺美化活動や除雪ボランティア等に取り組む。

重点目標		具体的取組		主担当	達成度判断基準	分析(結果と課題)及び次年度の扱い(改善策等)
3	専門的技能の習得をはじめ、資格取得や検定、各種コンテストに意欲的に取り組み確かな進路実現を図る。(技能スタンダードの推進)	①	就職希望者が１００％内定するとともに、第１社目受験での進路実現を図る。	進路指導課 ３年学年団	就職希望者が１社目受験で内定した割合で判断する。[継続] A　９０％以上 B　８５％～９０％未満 C　８０％～８５％未満 D　８０％未満	(進路指導課)　最終評価(A) 受験者１７１人中１社目で内定した者は、９５％の１６２人で、昨年より１ポイント減少した。次年度も生徒の職業意識を高め、万全の準備を行い、より多くの生徒が１社目受験で内定となるよう取り組む。
		②	生徒の将来に役立つよう資格取得指導に積極的に取り組む。	工業７科 教務課	認定者数（特別表彰＋ゴールド＋シルバー）で判断する。 A　６０名以上　[継続] B　５０名～６０名未満 C　４０名～５０名未満 D　４０名未満	(教務課)　最終評価(C) 全国工業高等学校長協会ジュニアマイスター顕彰認定者は４６人（特別表彰９人、ゴールド１６人、シルバー２１人）であり、昨年に比べ１７人増加した。今後も資格取得の意識を高めるとともに学科ごとに重点的に指導する資格について指導体制を充実し、合格者数の増加を図ることにより、更なる認定者数の増加を目指す。
		③	全国レベルの各種コンテスト・コンクールにおいて上位入賞を目指す。	工業７科	［地区予選を経て、全国大会出場となる競技や大会］の場合は、大会出場の難易度で判断する。　[継続] A　全国大会でベスト１６以上の成績であった。 B　全国大会に出場した。 C　ブロック大会で入賞した。 D　県大会で入賞した。	［地区予選を経て、全国大会出場となる競技や大会］(工業７科)　最終評価(C) ものづくりコンテスト県大会 旋盤部門 ２位（北信越大会３位） 〃　県大会 電気工事部門 ４位 〃　県大会 電子回路組立部門 ３位 〃　県大会 化学分析部門 ２位（北信越大会出場）
					［地区予選がなく、直接全国大会出場となる競技や大会］の場合は、出場した全国大会の成績で判断する。　[継続] A　全国大会でベスト８以上の成績であった B　全国大会でベスト１６以上の成績であった C　全国大会で初戦突破した。 D　全国大会に出場した	［地区予選がなく、直接全国大会出場となる競技や大会］(工業７科)　最終評価(A) 全国ソーラーラジコンカーコンテスト 2017 in 白山　優勝（４連覇）
					各種コンテスト、コンクールの難易度で判断する。 A　全国レベルのコンテスト等で入賞　[継続] B　全国レベルのコンテスト等で入選 C　県レベルのコンテスト等で入賞 D　県レベルのコンテスト等で入選	各種コンテスト、コンクール（工業７科）　最終評価(A) 愛鳥週間ポスターコンクール　環境大臣賞 明るい選挙啓発ポスターコンクール 文部科学大臣賞 県民陶芸展　審査員特別賞 石川県デザイン展　銅賞

学校関係者評価委員会の評価	・１社目受験での就職内定率が高いことは、進路指導等の指導の積み重ねの成果と考える。外部へ発信する際に、中学生にもわかりやすく発信して欲しい。 ・各種コンテストで上位入賞しているが、県工の専門性の高さを示す指標の一つになっており、今後もいろいろなコンテストに参加し、上位入賞を目指して欲しい。
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策	・より一層きめ細かな進路指導を行い、進学・就職ともに進路実現を図る。 ・各種資格取得やコンテスト入賞に向けて、継続して各教科・学科が連携し、学校全体で指導する体制を充実させる。

重点目標		具体的取組		主担当	達成度判断基準	分析(結果と課題)及び次年度の扱い(改善策等)
4	部活動や学校行事等、課外活動への積極的な参加を促し、たくましい体力と精神力、豊かな心を育む。	①	活発な部活動を通して、加入率と成果の更なる向上に努める。	生徒会課	各学年の部活動の加入率で判断する。［継続］ A　９５%以上 B　９０%～９５%未満 C　８５%～９０%未満 D　８５%未満	(生徒会課)　最終評価(A) 部・同好会加入率は、１年生 ９７ %、２年生 ９７ %、３年生 ９８ %、全体 ９７ %で、A評価を達成した。(昨年：１年生 ９９ %、２年生 ９８ %、３年生 ９５ %、全体 ９７ %)。 ここ最近は､高い加入率を維持している。年度当初の加入の呼びかけや、退部者への転部等の働きかけが功を奏しているものと思われる。次年度以降も積極的に部･同好会への加入を推進し、学校全体の活性化につなげていきたい。
					県総体の成績等で判断する。(個人・団体あわせて)［継続］ A　全国大会５部以上出場または総体順位男子２位以内 B　全国大会３部以上出場または総体順位男子４位以内 C　全国大会１部以上出場または総体順位男子６位以内 D　総体順位男子６位以下	(生徒会課)　最終評価(B) 全国高校総体には、男子バレー部、柔道部、ボクシング部が出場した。県総体学校対抗順位では暫定で男子７位（昨年６位)。男女総合で１２位(昨年１０位)。 今年は、全国大会に３部が出場したが、県総体学校対抗順位は後退した。今後の各種大会で上位入賞に向けて努力する。
		②	学校行事に積極的に取り組む姿勢を大切にし、協調性や責任感など心豊かな生徒の育成を図る。	生徒会課	保護者の目から見て生徒が学校の行事に満足していると回答する割合で判断する。［継続］ A　９０%以上 B　７５%～９０%未満 C　６０%～７５%未満 D　６０%未満	(生徒会課)　最終評価(A) 保護者対象の学校評価アンケートにおいて、満足していると「思う」６０%、「やや思う」３７%であり、肯定的な回答は９７%であった。 今後も学校行事に生徒が主体的・積極的に取り組むよう支援する。
		③	歯科保健指導を通し、健康な生活を営むことができる能力の育成に努める。	保健課	歯科受診済の生徒の割合で判断する。［継続］ A　３０%以上 B　２５%～３０%未満 C　２０%～２５%未満 D　２０%未満	(保健課)　最終評価(A) う歯未処置者の受診完了率は、３２%（７９名/２５０名）に到達した。 受診勧告や掲示物等、生徒のヘルスリテラシーやセルフケアの意識を高める取組によって３０%を超える結果になった。しかしながら、約７０%の生徒は受診を完了しておらず、今後も継続して健康づくりへの意識を高め、受診完了率向上を目指したい。また、要う歯処置者数が昨年より５３名減少した。これは、昨年度、歯科受診率がわずかながら向上したことが影響していると思われる。

学校関係者評価委員会の評価	・保護者から学校行事や人間力育成について高く評価されている。メール配信等を利用し、より一層の保護者への情報伝達を求める。 ・人間力を高める活動が充実しているのを聞き、頼もしく思う。今後も人間力を磨くために部活動や学校行事等、課外活動への更なる取組を求める。
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策	・部活動や学校行事等、課外活動へ参加する際、生徒に目的を明確に示し、たくましい体力と精神力、豊かな心を育むよう努める。 ・メール配信やホームページ等を活用し、保護者へ適時に的確な情報を発信するよう努める。